

すごいで、おとうさん



ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイグ 作 木坂 涼 訳 好学社 Eース

ピートは雨がふってきて外であそべないので、ご機嫌ななめです。おとうさんはそんなピートをみて、ピートでピッツアをつくったらたのしくなるかもしれないと思いました。おとうさんはピートをテーブルにのせ、きじをこねたり、ひっぱったり、空中にとばしたりしました。

ジャムおじさま

ヘレン・クレイグ 絵 マーガレット・マーヒー 文 たなか かおるこ 訳

徳間書店 Eーク

ある日、ママはおつとめにでることにしました。そこでパパが主夫になり、家のことをするようになります。パパの主夫ぶりはかんペき。かんペきすぎてやることがないなとパパが思ったとき、家のうらにある大きなプラムの木から、うれた実がおちる音がしました。ひらめいたパパは、くる日もくる日もプラム・ジャムをつくるようになりました。

火のくつと風のサンダル

ウルズラ＝ウェルフェル 作 関 楠生 訳 童話館出版 943ーヴ

もう少しで七才のチムは自分がでぶでちびなので、悲しくなるのでした。おとうさんは誕生日に赤いくつをチムにプレゼントします。そして夏休みに、赤いくつとリュックサックをもって、チムは「火のくつ」、おとうさんは「風のサンダル」と名のり、ふたりは楽しい旅にでかけました。

大草原の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー 作 恩地 三保子 訳 福音館書店 933ーワ

ローラたち一家は、ウィスコンシン州の「大きな森」の小さな家売り、野生の動物たちがいる西部へ旅立ちました。毎日馬車にのり、あたらしい場所でキャンプをします。長い長い旅をし、空のはてまでひろがる大草原に家を建てることにしました。とうさんは、家と馬小屋をつくるために何日も何日も丸太運びをします。

とうふやのかんこちゃん

吉田 道子 文 福音館書店 913-ヨ

かんこは、とうふやのこどもです。とうさんはとんがり山^{やま}のふもとにじぶんの店^{みせ}をもちました。が、なかなかじぶんのとうふづくりに自信^{じしん}がもてません。かんこはとうふの絵^えをかくて、店のよこのモミジの木^きのえだにはさみました。日曜日^{にちようび}のひるさがり、とうふの絵^えのはなしをしている元気^{げんき}な声^{こえ}がしました。かんこが店^{みせ}からでると、目の前^{めまへ}にいたのはにひきのキツネでした。

クリスマスがちかづくと

斉藤 倫 作 福音館書店 913-サ

セロがものごころついたときから、クリスマスの日^ひはいつもおとうさんはるすで、おかあさんはデパートのおしごとでした。だから、セロはクリスマスがだいきらいです。十さいのセロは、おかあさんにどうしておとうさんはふゆになると家^{いえ}にかえってこなくなるのか質問^{しつもん}しました。するとおかあさんは、ないしょのやくそくがまもれるかとセロにききました。

キタキツネのおとうさん

竹田津 実 文 福音館書店 489-タ

子ギツネはおかあさんがだいすきです。それにくらべ、おとうさんは子どもには人気^{にんき}がありません。おとうさんギツネは家族^{かぞく}のために巣^すをまもり、餌^{えさ}をはこぶ仕事^{しごと}に精^{せい}をだします。またおとうさんギツネには、子ギツネが危険^{きけん}から身^みをまもることを教えるだいじな仕事^{しごと}があります。キツネは、人間^{にんげん}のようにおとうさんとおかあさんが協力^{きょうりよく}して子育て^{こそだ}をしています。